

# 洋書輸入協会会報

VOL. 25  
NO. 2

(通巻286号) 1991年 2月

## 新年懇親会

1月8日 於 東京プリンスホテル

中近東の湾岸の形勢如何と、世界の多くの国が極度の緊張で迎えた新年、1月15日の期限で戦争か平和を分けるという。若し戦火が開かれると、洋書の輸入は多大の支障を来す。荷が止まる可能性が極めて大きい。(この原稿を送った翌日、トマホーク・ミサイルと戦闘爆撃機によって湾岸の戦火が開かれた。)

都心港区の拡大平坦な空間を駐車場にして、広場の奥に当節としては、さして階層の高くないホテルが巾広くゆったりと建つ。西武企業の余裕を見せつける殿堂東京プリンス。正面に、八畳もあろうかと思う大きな白い看板が三枚この日の新年宴会を案内していた。一枚の作成に数万円とられるから、財源を気にする洋書輸入協会は、見積り交渉の折に看板は遠慮した。幸い毎年同じ部屋が確保されて、正面入口を入ると馴れた足がエスカレーターに乗り、二階に上って左手に折れるのだから、大きな看板が無くてはよからうと、自分を納得させる。

準備のため早目に出向いたのだが、既に新潟考古堂書

店の風間さんが待っておられた。

「新幹線の都合で早過ぎました。新潟は大雪です。湯沢あたりが最高でしょうか、帰りは列車が止らないかと心配です。」

協会の都合で、いつも写真を撮って下さるメクレンブルグの鈴木さんの体調がよくないらしい。代って、カンダブックトレーディングの石村さんに、この日の写真をお願いする。大きなカメラ、三脚を受付の席で準備をされておられた。

予定のマグノリヤホールでは電器メーカーのオムロンの新年宴会が続いていた。見るところ、エレクトロニクスと書籍との違いの念を押されるような勢いの差があった。ホテル宴会サービス課の伊与田君が、片膝を床に着けるようにして「15分前には会場に入れるように致します。」と戦争のような場面転換を指揮してくれた。感情を荒げないようにして先行の電器屋さんのメンバーを追い出す。芝居の幕の替りのように見事だと感心していると、

新年懇親会……………	1	文化厚生委員会だより	東京の坂と橋と		
海外ニュース……………	3	第58回 72会ゴルフコンペ ……	6	文明開化(II)……………	7
洋書輸入協会史(60)……………	4	お知らせ……………	6	広告……………	8

ドアを開いて受入れ可能。当協会も数年前から、会費を徹底して銀行振込にしたのは、受付の混乱を防いで成功であった。

会合には参集者の名簿があった方がよい。正月の休みに家庭のワープロで作ったリストを手渡す。データの締め切りが年末であるので、その後の変更は勘弁して頂くこととした。

6時ぴったりに開会しようとする、受付の机の上には100名の名札が残っていた。総勢83社234名の出席の半数近くに当るので、6時12分まで待って開幕。

理事長海老原丸善社長は、新年懇親会への丸善25名参加は、売上のシェアに比例していると控え目に、ユーモラスにおっしゃった。

理事長は続けて、今年は洋書輸入協会が発足して50年であること、洋書で新事情を知るだけでなく、もっと外国と深く知り合うことが必要と協調された。新しい時代の書籍と異った媒体とも互に相和しながら、半世紀の歴史を生かして業界の発展を期したい、と挨拶された。

この日の懇親会に、韓国の汎文社の柳益衡氏をお招きした。昨年ユサコの山川社長担当の渉外委員会が訪韓グループを企画、彼の地で柳さんに大変お世話になった。そのお礼の意味のお招きである。協会がホテル代を持ったわけでもなく、航空券を贈ったわけでもないが、喜んで出席したと云って下さった柳さんに感謝する。

さて、乾杯に入る。明治・大正・昭和・平成の四代を生き、百才を期しておられる東光堂石内会長に音頭をお願いした。あと10回新年宴会をすれば21世紀、と軒昂たる意気で「おめでとう！」と杯を高く上げられた。

このあと、各個の賀詞交換、懇談に入る。それぞれ充分に年の始めの語らいをされたことと思う。

やがて冬の夜8時も間近、尽きぬ懇談を閉める頃合いと見た。昨年6月、三洋出版さんに替って文化厚生委員長を委嘱された洋販の渡辺社長が閉会の挨拶を述べ、ユサコの山川社長に手じめの音頭をとって頂いた。

(洋販 栗原光輝)



賀詞交歓風景 (Z.I.)



海老原熊雄理事長



汎文社 柳益衡社長

## 海外ニュース

### 「英国主要4社が W. H. スミス社に送本停止」

Reed Consumer Books, Random Century, Pan Macmillan, BBC Books の英国の大手出版社4社は、英国最大の書店チェーンのひとつである W. H. Smith 社への新刊書および在庫本の供給を停止した。

英国の書店の通常の支払期限は60日であるが、W. H. Smith はこれを30日延長した90日払いを要求した。上記4社は、これには到底応じられぬとして取引を停止したものである。30日延長した場合、出版社側の損失は100万ポンドにつき1万ないし1万4千ポンドにのぼるといふ。出版社側は、60日期限ならいつでも供給再開すると云っているが、書店に対しこれほどまでに強硬な態度に出ることは珍しく、他の出版社、書店とも成り行きを注目している。

(The Bookseller、12月14日号他より)

### 「フォルク・ウント・ヴィッセンの買収」

オランダの Wolters Kluwer のドイツの子会社 Luchterhand は、東ベルリンの Volk und Wissen の社会科学部門の書籍約150点と雑誌24点を買収した。Luchterhand は、ベルリンに支社を設立して、買収した雑誌の活性化をはかるとのこと。

Volk und Wissen は、旧東ドイツの教科書の独占的出版社であったが、今度の Wolters Kluwer による買収には教科書は含まれていない。教科書は、旧西ドイツの代表的教科書出版社のひとつである Westerman が強い関心を示し、買収に動いている。

(BP レポート、12月24日号他より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

# 洋書輸入協会史 (60)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

## 63 輸入担保率再引き上げとその復旧

### 63.1 輸入担保率再引き上げ

昭和32(1957)年6月21日付、海輸第26号で理事会は次のように会員へ知らせている。

記

輸入担保率再引き上げについて

既に御承知の通り、政府は国際収支改善の為総合政策の一環として、6月20日から輸入担保率の再引き上げを実施致しました。

これにより、「書籍及び定期刊行物」につきましては、地域別なく一律輸入申請額の5%、担保の種類は日銀に対し現金積み立てとなりましたから御承知おき下さい。

(以上)

### 63.2 輸入担保率再引き上げの背景

昭和28(1953)年2月の、A・A(為替割当ての自動承認制)停止の際に、ドル・ポンド地域の担保率が5%に引き上げられ、更に昭和29(1954)年1月の再停止に際してはこれが10%、2月に入っては実に20%に引き上げられ、洋書輸入業者の負担を著しく増大した。

この時の輸入担保率の引き上げには、朝鮮動乱以来の好況の中で、株式が異常な過熱状態を続けてきたことと、そのかげで国際収支が徐々に悪化していた背景がある。スターリン暴落も昭和28年3月5日から起っている。

輸入担保率の引き上げにたまりかねた業界は、担保率引き下げの陳情を繰り返し、先ず昭和29年11月1日から「官公署、教育機関等購入書籍等輸入特例の件」として、これらの購入に際しては担保率が25%から1%に引き下げられる「特例」を獲得した。

次いで一般担保率も昭和30(1955)年4月7日より3%に引き下げられることとなった。

(注) 以上の経緯に関しては、洋書輸入協会々報所載の、協会史(31)の35章、「A・A停止とその解除の条件」、協会史(34)の40章、「またまたA・A停止と担保金比率の引き上げ」、協会史(35)、(36)、(37)に連載の42章、「外国書籍及び定期刊行物の輸入承認に対する担保率引き下げの運動」参照。

今回の担保率再引き上げには、またそれなりの背景がある。即ち、昭和31(1956)年7月から始まった神武景気は、急激な経済活動の拡大のため、輸入が増大し、その結果国際収支のバランスが崩れた。そこで日本銀行は、s32年3月、5月と2回にわたって公定歩合を引き上げ、6月には政府より国際収支改善緊急対策が発表された。そして神武景気は早くもこの6月で終りを告げている。

そのような背景のもとで、前述のようにs32年6月から輸入担保率が3%から5%に引き上げられている。

### 63.3 書籍及び定期刊行物の輸入については、無担保とされるよう請願

今回の輸入担保率の引き上げは、国際収支の悪化が背景となっているため、同業会の理事会としても慎重に請願の時期を見計らっていた。昭和33(1958)年に入ると、輸入緩和の兆しが見え始めたが、輸入担保率の引き下げは見送られてきた。そのため各方面から引き下げの陳情書や請願書が通産省へ提出されたが、理事会としては、思い切ってA・Aによる書籍及び定期刊行物の担保率を、一挙に零とするよう請願することに決め、3月25日に理事一同で通産省通商局輸入第一課 岩井具冬事務官(班長)を訪問し、請願書を提出の上懇談している。請願書の全文は次の通り(昭和33年3月26日付、JBIA No.9所載)。

記

自動承認制度による外国書籍及び定期刊行物の輸入承認を無担保制度に改正する請願書

昭和33年3月

洋書輸入協会理事長 司 忠

通商産業大臣 前尾繁三郎殿

請願事項

自動承認制度による外国書籍及び定期刊行物の輸入承認に対する担保率は、昭和32年6月20日から5%に引き上げられて現在に及んでおりますが、これを無担保制度に改正されますよう左記事情御斟酌の上格別の御取計いを賜り度請願致します。

## 理 由

- (1) 外国書籍及び定期刊行物の輸入は、我が国におきまして一日も忽せにすることが出来ない性質のものでありまして、原子力の研究その他欧米諸国において日進月歩の飛躍的研究が各方面で伝えられております今日、それらの基礎資料と申すべき学術書籍の獲得の重要性は、改めて申すまでもないと存じます。
- (2) しかもこれらの外国書籍及び定期刊行物を必要とする向きは、主として諸官庁、大学、研究所、図書館、各種工業または学術団体その他特殊研究家でありまして、その需要量の全体は過去の実績に鑑みましても、これに必要な外貨の面では、自ずから一定の限度があると申しても差支えありません。
- (3) 外国書籍及び定期刊行物には、御承知のように定価が附されております。これらを取り扱う業者の販売手数料も、その複雑な業務に掛る所要経費に対して薄利で、且つ続々新刊、新版が刊行せられておりますから、担保率引き下げの結果、投機的思惑輸入を誘致する如き恐れは、他の商品と異なり一切ありません。
- (4) 然るに外国書籍及び定期刊行物輸入業者の経営状態を顧みますと、元来その主たる得意先は官庁、大学、研究所等であります関係上、御予算並びに手続きの関係で、御支払いに多大の日数を要するのが通例でありまして、業者の資金回転は平素においても窮屈であり、それが担保率引き上げの結果、業者の負担は一層過重となっている次第であります。
- (5) 加うるに近時の国際収支の悪化による輸入金融の引き締めは、外国書籍取り扱いの上にも波及致しまして、自然書籍代の海外送金の円滑を欠き、対外信用にも重大なる影響を来しまして、緊急重要な書籍及び定期刊行物の輸入に支障を生じつつある現状であります。
- (6) 以上の結果、外国書籍取り扱い業者として深刻なる経営の難関に逢着致しておりますばかりでなく、惹いては海外先進国の学問、技術の研究資料たる書籍類の早期輸入に一大支障を来しつつあります事は、独り業者としての文化的使命の維持が危ぶまれるのみでなく、我が国学問技術の発達上誠に憂慮すべき事柄であろうと存じます。

以上の理由によりまして、外国書籍及び定期刊行物取り扱い業界の現状を御諒察下さいまして、その及ぼすところの国家的、文化的意義の重大なる点を特に御勘考相成りまして、この際成るべく早急に担保金制度を撤廃さ

れますよう、格別の御処置の程業界を代表して衷心から切に懇願申し上げます。(以上)

(注) アンダーラインは筆者。

この請願書は、洋書輸入業者の文化的使命を大上段に振りかぶって、格調高く構成されているものである。

### 63.4 輸入担保率引き下げの発表

前述の請願書ばかりでなく、各業界からの陳情が相次ぎ、更に国際収支が若干改善された結果であろうか(昭和33年6月には、引き上げられていた公定歩合が戦後初めて引き下げられ、引き続き9月にも引き下げられている)、昭和33(1958)年4月28日付のJBIA No. 16で下記のように会員へ知らせている。

#### 記

かねて通産省において担保比率の引き下げについて検討中でしたが、本日午後4時、来る5月1日より実施の旨発表がありました。

書籍及び定期刊行物については、取り敢えず32年6月20日以前の状態にもどり3%(官庁購入物資1%)、日銀現金積み立ての必要無く、為替銀行に対する保証状だけでよい事になりましたから、左様御承知下さい。(以上)

昭和29年から30年にかけての担保率引き上げの騒動は、延々1年3カ月をかけて陳情を繰り返した結果やっと引き下げに成功したものであったが、今回は日本の経済復興にだいふ力がついてきたことでもあり、また先回に比較して上げ幅も少なく、約10カ月で旧に復することができた。しかし担保率上下の問題は日本経済の一つの調節弁として、今後も折に触れて取り上げられるだろうとの予感があった。

### 64 フランス・フランの切り下げ

昭和32(1957)年8月10日、フランス・フランの16.7%の切り下げが行われたことは、洋書輸入協会会報 Vol. 24、No. 9(1990年9月号)所載、協会史(55)、59.2項で取り上げたが、フランス・フランがまたまた切り下げられている。

即ち昭和33(1958)年12月29日付、JBIA No. 55で、会員に次のように知らせている。

#### 記

フランス通貨切り下げについて

既に新聞紙上その他で御承知のことと思われませんが、フランス政府は27日、フランを17.55%切り下げ、対米為替レートを現在の1ドル対420フランから、1ドル対493.70フランとし、29日から実施する旨発表がありました。(以下略)

フランス・フランはここ数年来不安定な状態が続いており、今回の17.55%の切り下げは2年連続のものであったが、それでも長期の安定は困難であろうとの見通しで、いずれデノミネーションは避けられないだろうとの噂がしきりであった。戦後のフランス・フランのこれまでの動向は次の通り。

1948 (s23)	1.26	44.45%切り下げ
49 (s24)	9.20	38.75% //
57 (s32)	8.10	16.7% //
58 (s33)	12.29	17.55% //

なお、この切り下げによってフランス書の価格は、ある大手に例を取ると書籍100フラン……90円、定期行物……95円となった模様である。(続く)

発揮できず脱帽。そして3位にも小関妙子さん(名著普及)が入り、女性上位の90年でした。尚鶴三郎さん(東亜)が、前月の11月にゴルファー念願のホールインワンを達成しました。11月25日、ホームコースの高根カントリークラブの東コース7番(150ヤード)で、ご家族の目の前で達成されたそうです。お父さんのカブもずいぶん上がったでしょうね。

又、今回のコンペのパーティーは、ご祝儀ということで鶴さんの全額ご寄付によって飲んで騒ぎました。鶴さんありがとうございます。

優勝	和田実(ユサコ)	46	53	Net75
準優勝	後藤明美(フェファール)	44	45	Net76
3位	小関妙子(名著普及)	52	57	Net80

ベストグロス	後藤明美	89
ドラコン	川原孝人、鶴三郎	
ニアピン	竹内紀彰、大野俊	

(S. W.)

## 文化厚生委員会だより

### 第58回 72会ゴルフコンペ

武蔵カントリークラブ笹井コース

1990年12月18日(火)

1990年を締めくくる納会が、名門武蔵カントリークラブで行われました。ほとんど平らな林間コースなのですが、距離が長くてタフ、よほど飛ぶ人でないとパーオンをなかなか狙えないというむずかしいコースで、優勝を勝ち取ったのは、1年半位72会にはブランクのあった和田実さん(ユサコ)でした。他の常連が回毎にハンデを減してゆく中で、しっかりとハンデを温存。実力からすれば、いつ優勝してもおかしくなかったのです。2位には、いつも目だちたくないと言いながら、結局話題の中心になってしまう後藤明美さん(フェッファール・アンド・サイモンズ)。今回はシングルハンデの大野さんの指定席、ベストグロスまで取ってしまいました。一緒にプレイしたコースオーナーの中林さん(日貿)、女性には負けまいというプレッシャーに、まるで押しつぶされて実力

## おしらせ

次の方が新たに入会されました。

賛助会員

ペンギン・ブックス・ジャパン

代表者 パトリック・ライト

〒112 東京都文京区関口1-13-19 王露園ビル

Tel. (03) 3266-0465

Fax. (03) 3266-0326

なお、ロングマン・ペンギン・ジャパン株式会社は、引き続き賛助会員として入会されております。

次の通り住所が変更になりました。

エルゼビア・サイエンス・パブリッシャーズ

日本支社

新住所 〒113 東京都文京区湯島3-20-12

ツナシマビル・アネックス

Tel. (03) 3836-0810

Fax. (03) 3839-4344

丸善・本の図書館 鈴木陽二

萩原朔太郎に「殺人事件」という詩篇がある。「とほい空でびすとるが鳴る。／またびすとるが鳴る。／ああ私は玻璃の衣裳をきて、／こひびとの窓からしのびこむ、／床は晶玉、／ゆびとゆびとのあひだから、／まつさをの血が流れてゐる、／かなしい女の屍体のうへで、／つめたいきりぎりすが鳴いてゐる。」(『月に吠える』)。時あたかも大正ロマンの世、時代の空気が凝縮したような詩である。この詩の詠まれた頃活動写真は民衆の代表的娯楽として盛況を極めており、朔太郎も足繁く浅草の活動写真館に通っていた。生星犀星と共に見たという探偵映画「プロテア」などに誘発されて生まれた詩であったのであろうか。ともあれ、六区に花咲いた活動写真文化は浅草の文化そのものと云えるものであった。ここではその活動写真の歴史を、浅草の雰囲気伝える断片を拾いながら書き留めてみることにしたい。

日本における映画は明治29年のキネトスコープ(1893年エジソンの発明)の輸入に始まり、まず神戸で公開され、東京では浅草の花屋敷と上野公園で興行が行われた。次いでシネマトグラフ(1895年フランスで発明)が明治30年に輸入されて大阪をかわきりに上映が開始され、東京では神田の川上座、続いて浅草六区に天幕張りのシネマトグラフ館を仮設して上映された。この映画は一坪程の小さなスクリーンに投写するともかく映画といえるようなものであったが、キネトスコープの方は箱型の映写機械を観客が列を作って一人(あるいは二人)ずつ上から覗き込む形のものであった。シネマトグラフは同じ頃東京でも直接輸入されたが、このフィルムに彩色した着色映画が神田の錦輝館で上映され大きな反響を呼んだ。さらに同じ年の明治30年にはヴァイタスコープ(アメリカ人が発明エジソンが改良)が大阪で輸入、興行され、間もなく東京でも輸入して錦輝館にかけられた。

こうしてフィルムのストックも徐々に増加して来たため、同一劇場で長期興行ができるようになって来た。そして最初の映画常設館として明治36年に浅草の電気館が発足し、浅草だけを見ても明治40年になってから三友館、福寿館、大勝館、富士館などが次々と誕生する。また実演と活動写真を一緒にした「実物応用活動写真」を見せ

るオペラ館は明治42年に、遊園地風で映画も見せるルナパークは明治43年にそれぞれ開場する。

さて、冒頭「プロテア」に触れたが、明治44年に浅草の金龍館にかかった「ジゴマ」は公開されるや大犯罪活劇映画として万都を沸かした。この映画に刺激された犯罪が頻発したため当局から上映禁止の浮き目をみることになるのであるが、その後この系統として「ファントマ」「鉄の爪」など数多くの洋画探偵物が、活弁の名調子とあいまって多くの人々を引き寄せた。やがて日本製活劇映画「目玉の松ちゃん」こと尾上松之助の主演する時代劇が現れるや同じ体臭の活劇物として浅草に爆発的評判を呼び、日本映画に一時期を画する。

東京市民の人気をさらった映画として有名なものは「カチューシャ」である。これは大正3年に日本キネトフォンの製作になるもので、例の一世を風靡した「カチューシャの唄」を松井須磨子が歌い、それを蠟管に録音して発声させた映画で、これを見た観客は大喜びし手を叩いて唱和したという。なおキネトフォンはエジソンの発明になるもので、曲がりなりにも声の出る初めての映画であった。

大正4年にはチャップリンの喜劇映画がみくに座に封切られたのに続いて浅草の帝国館、電気館にかけられた。彼の風貌や演技がいかに浅草の風土にピッタリとはまり込んで大喝采を博し、やがてこの喜劇の風味が浅草軽演劇へ影響を与え取り込まれて行く。

谷崎潤一郎は大の映画好きで浅草の活動写真館に通いつめただけではなく、とうとう自分で映画の製作に関わるようになってしまった。大正活映(大活)という映画会社の文芸顧問となって「アマチュア倶楽部」や『雨月物語』を脚色した「蛇性の淫」など幾つかの作品を製作したが、この辺の様子は今東光の自伝的小説『十二階崩壊』という誠に面白い未完の長編で紹介されている。

日本の映画史について語る方はないので、田中純一郎氏による『日本映画発達史』(全5巻)という優れた文献を参照して頂きたいが、ともあれ映画は日本の大衆文化を作った大きな要素であり、その促進に浅草六区の果たした役割の大きさを今つくづくと思わざるを得ない。

# Lippincott

## PERIODICALS FOR THE HEALTH PROFESSIONS

### 麻醉

Anesthesiology  
ASA Refresher Courses in Anesthesiology  
Problems in Anesthesia  
Regional Anesthesia

### 外科

Annals of Surgery  
Problems in General Surgery  
The American Surgeon  
Current Surgery  
Problems in Plastics and Reconstructive Surgery

### 癌、病理

Cancer  
Ca-A Cancer Journal for Clinicians  
PPO Update  
Oncology Times  
The American Journal of Pathology  
American Journal of Clinical Pathology

### 整形外科

Clinical Orthopaedics and Related Research  
Arthritis & Rheumatism  
Orthopedic Product News  
Spine

### 眼科

Ophthalmology  
Investigative Ophthalmology and Visual Science  
Retina  
Problems in Optometry

### 薬学、放射線

The Journal of Clinical Pharmacology  
Hospital Pharmacy  
Clinical Nuclear Medicine  
Investigative Radiology  
Journal of Diagnostic Medical Sonography

### 産婦人科

Clinical Obstetrics and Gynecology  
Journal of Obstetric, Gynecologic and Neonatal Nursing (JOGNN)

NAACOG's Clinical Issues in Perinatal and Women's Health Nursing

### その他医学、看護、栄養学

AIDS Updates  
Sexually Transmitted Diseases  
ASAIO Transactions  
The Ambulatory Medicine Letter  
The American Journal of the Medical Sciences  
Emergency Medicine News  
HMO Practice  
International Journal of Dermatology  
The Journal of Veterinary Internal Medicine

Problems in Veterinary Medicine  
Veterinary Surgery  
Problems in Respiratory Care  
Problems in Urology  
Journal of Andrology  
Journal of Cardiopulmonary Rehabilitation  
Nutrition Clinics  
Nutrition Forum  
AACN's Clinical Issues in Critical Care Nursing

Computers in Nursing  
Home Healthcare Nurse  
Medical Care  
Dimensions of Critical Care Nursing (DCCN)  
Nurse Educator  
Nursing Diagnosis  
The Journal of the American Academy of Nurse Practitioners  
Journal of Child and Adolescent Psychiatric and Mental Health Nursing  
Journal of Intravenous Nursing  
Journal of Nursing Administration (JONA)  
Journal of Nursing Staff Development  
Problems in Critical Care

(J. B. Lippincott Company)

〈日本総代理店〉

ユサコ株式会社

本社：〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号 堤ビル ☎(03)3502-6473

営業所：大阪 ☎(06)344-6624 名古屋 ☎(052)931-2601

筑波 ☎(0298)23-1773

-USACO®-

1991年2月 通巻第286号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎3271-6901 FAX.3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329